研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-169		17-089	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

The Relationship between Starting to Drink and Psychological Distress, Sleep Disturbance after the Great East Japan Earthquake and Nuclear Disaster: The Fukushima Health Management Survey

東北大震災後の飲酒開始と心理的ストレス及び不眠との関連

執筆者

Orui M, Ueda Y, Suzuki Y, Maeda M, Ohira T, Yabe H, Yasumura S.

掲載誌

Int J Environ Res Public Health. 2017 Oct 24;14(10). pii: E1281. doi: 10.3390/ijerph14101281

キーワード	PMID
東北大震災、新規飲酒者、Kessler 6	29064443

要　旨

目的：

東北大震災後に新規に飲酒を開始した人の頻度と継続して飲酒をしているかを本縦断研究で調べることが目的である。さらに、新規に飲酒開始と心理的な要因や災害に関連した経験、被ばくの危険と関連があるか調べた。

方法：

対象者は、2012、2013 年に福島で行われた調査に参加した災害前に非飲酒者であった 37,687 人のデータを用いた。後ろ向きに集めた情報を基に、震災前に非飲酒者で震災後に飲酒を始めた者を新規飲酒者と定義した。

結果：

2012 年に非飲酒のうち 9.6%が飲酒を開始し、そのうち 18.4%が重度の飲酒者であった。2013 年まで、新規飲酒者の中で、飲酒を続けた者の頻度は 53.8%であった。ロジスティック回帰分析によって、震災に関連した経験と被ばくの危険を調整した後で、震災後新規に飲酒者との関連が有意と認められたのは、男性、65 歳未満、睡眠不足、心理的なストレス（Kessler 6 スコアが 13 点以下）であった。また、心理的なストレスと重度の飲酒は、新規飲酒者の間で飲酒を継続させる有意な危険因子であった。

結論：

新規飲酒者は震災に関連したストレスを対処するためにアルコールを用いるのかもしれない。そのため、彼らは、震災に関連した公共医療サービスを受ける対象になると考えられる。さらに、震災後新規の飲酒は重度な飲酒を継続しがちなので、早期介入によって、節度のある飲酒行動を推奨すべきである。